

心かがやき

題字／旭岡聖順



板谷波山《彩磁呉州絵香炉》
(佐野市立吉澤記念美術館蔵)



星宮神社(赤見町)の狛犬
(阿形・明治28年9月建立)

佐野の狛犬

— 阿吽の世界 —

10月6日(土)～11月25日(日)
佐野市郷土博物館

板谷波山と近現代の陶芸

9月15日(土)～12月9日(日)
佐野市立吉澤記念美術館

公益財団法人佐野市民文化振興事業団企画展共催事業

理事長あいさつ

「新たな出発にあたって」

公益財団法人佐野市民文化振興事業団

理事長 太田 哲夫



当事業団は、新公益法人制度の施行に伴い、過年度において公益認定の準備手続きを進めてまいりましたが、平成24年3月23日に栃木県公益認定等審議会より公益財団法人としての認定を受け、4月1日より公益財団法人佐野市民文化振興事業団として再出発をいたしました。

この間、行政当局を始め市民各界の皆様へ格別のご指導とご協力をいただきましたことに対し、深く感謝申し上げます。

新たな理事会、評議員会、事業選考委員会、事務局による組織体制で適正な事業運営に努めてまいります。本年度も市民の皆様には更なるご協力をいただきますようお願い申し上げます。

新年度が始まって間もない4月17日に、平成7年から20年まで理事長を務めた旭岡聖順様のご逝去になりました。事業団設立以来、物心両面において多大なご尽力をいただきました。改めて深甚なる敬意と感謝の意を表するとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、当事業団の事業は、保有資金の運用益で賄われております。デフレ経済が長引き低金利が定着して運用環境には恵まれておりませんが、本年度の事業計画では、従来取り組んできた演劇鑑賞会や企画展共催事業および芸術・文化活動への助成事業に加えて、昨年度より手がけてまいりました芸術文化に関する

人材育成事業の拡充に取り組みます。舞台裏方講座、アートマネジメント講座、子ども演劇サマースクールなど専門家の指導による体験型の講座を提供します。ふりつてご参加いただければ幸いです。

わが町は老若男女を問わず芸術文化活動が盛んで、まさに生涯学習の精神が実践されております。伝統文化も根付いております。当事業団も市民の皆様方と共に歩んでまいりたいと思います。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

「コラム」

「住んでいることが誇りに思える文化のまち」

日本文化行政研究会 代表 森 啓



日本は戦争で焼け野原になりました。それからひたすら働いて世界第二の豊かな国になりました。便利で豊かな日本になりましたが「モノとカネ」を唯一の価値と考える人が多い世の中になっています。

座標軸の揺らぎ

日本の若者は、韓国や中国の若者に比べると積極性の面でかなり劣ります。社会に参画する意欲も劣っています。なぜこうなったのか。

「生活が豊かになったから」ではないと思います。日本の若者は「希望」が持てないのです。自分の将来に展望が描けないのです。それは思考の座標軸が揺らいでいるからです。

日本の「円」は国際社会では一流ですが、日本人の暮らし方は品性が無く貧しいと評されています。重要なことを人任せにしているとも言われています。日本社

会に状況追随思考が蔓延して批判的思考力が著しく衰退しているからではないでしょうか。

文化のまちづくり

日本は急速な工業開発で便利になりましたが、歴史や伝統文化の大切さを忘れていきます。これに気付いて「何とかしよう」と考えるのが、「文化のまちづくり」です。

文化とは「人間ならではの暮らし方」です。行政が「やるべきこと」「手を出してはならぬこと」をわきまえて「住んでいることが誇りに思える地域社会」をつくる営みが文化行政です。感性を育む「芸術・芸能」を支援するのも重要な文化行政です。文化行政は1980年代に大阪から始まり多くの成果を挙げました。それから30年の歳月が経過しました。その大阪では市長が「文楽」への助成を減額すると言いついて問題になっています。文楽は日本の誇る宝であり日本人の財産ですが、この「公共財」を保存するには公共の助成が必要であり、「ムダ」と切り捨てるのは品格の欠落した文化行政です。

今では、意欲を喪失した「文化行政」と、工夫を続ける「文化行政」に分かれています。佐野市の文化行政は後者です。

文化は財政に余裕のあるときのことだ、右肩上がりの経済の時代は終わったのだから、との言い方があります。しかし、文化行政が始まったときもオイルショックで財政は窮迫していたのです。初期の実践例は武庫川の宝塚大橋でした。横浜市役所横の「くすの木広場」は「美しさ・楽しさ・地域個性」を施策に取り入れた「行政の文化化」の実例です。

花と緑と彫刻のまちづくり、歴史的建造物の保存、歴史の連続性を喚起する地名の保存、商店街の魅力、都市の修景美化、景観条例の制定など「文化の見えるまちづくり」が展開されました。非日常の興奮と感動を楽しむ音楽祭や演劇祭、誇りの感情でわが

まちを見つめる市民オペラ、市民文化の拠点となった文化ホール、美しい景観や潤いのある風景が作り出されてきました。文化行政が提起した問題意識は確実に浸透したのです。

佐野市は能楽「鉢木」で全国に知られています。「文化イメージ」の良いまちです。

佐野市の文化行政がますます発展することを希望します。

《経歴》

神奈川県自治総合研究センター研究部長
北海道大学法学部教授（公共政策論）
北海学園大学法学部教授（自治体学）

《著作》

「文化の見えるまち」公人の友社
「文化行政―行政の自己革新」学陽書房
「文化ホールがまちをつくる」学陽書房
「自治体の政策形成力」時事通信社 他多数

平成23年度事業報告及び収支決算

平成24年5月8日、29日にそれぞれ開催されました、平成24年度第一回通常理事会及び平成24年度定時評議員会において、平成23年度の事業報告並びに収支決算が承認されました。

▼公益財団法人への移行について

平成24年3月23日に栃木県より公益財団法人としての認可が下りましたので、同年4月1日に宇都宮地方事務局にて、公益財団法人佐野市民文化振興事業団の設立及び財団法人佐野市民文化振興事業団の解散について、登記申請を行いました。

▼演劇鑑賞教室事業

『義経千本桜』の鑑賞

期日 平成23年7月6日（水）
場所 国立劇場（東京都）

▼企画展共催事業

「小堀鞆音没後80周年記念展」／文化振興事業団・郷土博物館・吉澤記念美術館共催事業

期日 平成23年10月1日（土）
11月13日（日）
場所 吉澤記念美術館、郷土博物館

▼芸術・文化活動助成事業

第100回 日本水彩画会安足支部展

期日 平成24年1月25日（水）～29日（日）
場所 佐野市文化会館 展示室A、B、201、205
会議室
主催 社団法人日本水彩画会安足支部
支援内容 「地域の芸術・文化振興活動助成金」として15万円を交付した。

▼芸術・文化に関する人材育成事業

○舞台裏方講座

期日 平成23年7月8日（金）～10日（日）
場所 佐野市文化会館
講師 龍福孝明氏（宇都宮舞台サービス）

○アートマネジメント講座

内容 文化ホールやギャラリーなどの文化施設を使って、市民が主体的に事業をプロデュースしていくために必要なことを、企画から運営まで学んだ。
期日 平成24年1月14日（土）、15日（日）、21日（土）、22日（日）
場所 佐野市文化会館
講師 松井憲太郎氏（富士見市民文化会館館長）

○演劇体験ワークショップ

・子ども演劇ワークショップ

期日 平成23年7月23日（土）、24日（日）、30日（土）、31日（日）
場所 葛生あくとプラザ

講師 加納朋之氏、櫻井章喜氏（以上文学座）、古川悦史氏

・大人向け演劇ワークショップ
期日 平成23年12月10日（土）、11日（日）、17日（土）、18日（日）、23日（金）

場所 葛生あくとプラザ
講師 加納朋之氏、佐古真弓氏、栗野史浩氏、山谷典子氏（以上文学座）

▼共通事業

○事業団報「かがやき」第17号の発行

事業団報「かがやき」第17号を発行し、全世帯に配布した。

発行 平成23年8月1日
体裁 A4版、6頁
部数 45,000部

貸借対照表

平成24年3月31日現在(単位:円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	1,323,683
2. 固定資産	
(1) 基本財産	500,000,000
(2) 特定資産	430,353,065
(3) その他固定資産	3,954,037
固定資産合計	934,307,102
資産合計	935,630,785
II 負債の部	
1. 流動負債	2,535
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	895,822,596
(うち基本財産への充当額)	(500,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(395,822,596)
2. 一般正味財産	39,805,654
(うち特定資産への充当額)	(34,530,470)
正味財産合計	935,628,250
負債及び正味財産合計	935,630,785

平成24年度事業計画

「すべての市民が優れた文化環境のもとで、
うるおいと活力のある生活を営める地域社会の
実現」を基本理念に、佐野市の芸術・文化の振
興を図るため、次の事業を行います。

▼演劇鑑賞教室事業

歌舞伎「毛抜」の鑑賞

期日 平成24年7月6日(金)
場所 国立劇場(東京都)

▼企画展共催事業

・吉澤記念美術館 「板谷波山と近現代の陶芸」
・郷土博物館 「佐野の狛犬―阿吽の世界―」

▼芸術・文化に関する人材育成事業

○子ども演劇サマースクール

期日 平成24年7月24日(火)～29日(日)
場所 葛生あくとプラザ

○アートマネジメント講座

期日 平成24年12月8日(土)、9日(日)、22
日(土)、23日(日)

場所 葛生あくとプラザ

○舞台裏方講座

期日 平成25年1月26日(土)、27日(日)
場所 葛生あくとプラザ

▼芸術・文化活動助成事業

芸術・文化活動助成金(1団体につき最高15
万円交付)

▼共通事業

○事業団報「かがやき」の発行

平成24年8月1日発行、市内全世帯配布

○広報誌・インターネットの活用

事業のPRのために、市の広報誌や、新聞、
ケーブルテレビ等を活用し、積極的に市民への
情報提供を行うほか、ホームページの充実を図
り、事業・イベント情報を随時発信する。

★最近の事業から

7月6日(金)に東京・国立劇場にて、歌舞伎
鑑賞教室を開催しました。申し込み多数の中から
当選された80名の方々に、歌舞伎十八番の内「毛
抜」を鑑賞していただきました。

参加者からは「初めて歌舞伎を観たが、とても
面白かった。」という声がありました。



事務局だより



公益財団法人への移行に伴い、事業団では
既存事業の見直しと新事業の展開を行っており
ます。佐野市をこれまで以上に魅力ある芸術・
文化の街にするため、事務局一同努力していま
います。今後とも更なるご支援のほど、よろ
しくお願いします。

(公財)佐野市民文化振興事業団

評議員・役員一覧(順不同)

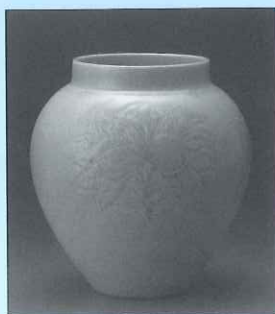
役職	氏名
評議員	旭岡靖人
評議員	大芦宏
評議員	落合一義
評議員	片柳展代
評議員	島田嘉内
評議員	渡邊昭
顧問	岡部正英
理事長	太田哲夫
専務理事	落合正
理事	小野ナツ
理事	菊池宏行
理事	佐野正行
理事	金尾富司
監事	田沼穰
監事	寺岡篤

訃報

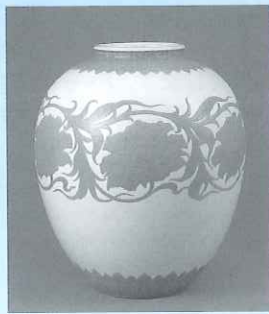
去る4月17日、春日岡山惣宗寺の旭岡聖順
様が逝去されました。佐野市民文化振興事業
団第2代理事長として、地域の文化振興に
多大な功績を残されました。生前のご功労に
感謝申し上げますとともに、心からご冥福を
お祈りいたします。

企画展共催事業

佐野市立吉澤記念美術館 「板谷波山と近現代の陶芸」



《青磁延寿文花瓶》



《葆光彩磁牡丹文様花瓶》

板谷波山(茨城県出身)は、多くの人の憧れと尊敬を受け続けている近代の陶芸家です。この展覧会では、吉澤コレクションの板谷波山作品約30点(初公開作品含む)が初めて一堂に会します。10月10日に50回忌を迎えるこの機会に、波山のきよらかな作品世界に接していただけたら幸いです。富本憲吉・田村耕一ら近現代陶芸の優品を加え計約60点の展示を予定。

会 期 平成 **24** 年 **9** 月 **15** 日 (土) ~ **12** 月 **9** 日 (日)

開館時間 午前 9 時 30 分 ~ 午後 5 時

休 館 日 毎週月曜 (9月17日、10月8日は開館)、祝日の翌日 (9月18日、10月9日)

観 覧 料 一般 500 円 (20 名以上の団体 450 円)、

大学生以下・障害者手帳等をお持ちの方無料

電 話 0283-86-2008

— 特別講演会「板谷波山の魅力」(仮) —

日 時 : 平成 **24** 年 **11** 月 **3** 日 (土) 午後 2 時 ~

講 師 : 荒川正明氏 (学習院大学教授)・齊藤勝美氏 (陶芸家)

参加費等 : 参加無料、定員 70 名 (申込先着順)

申込方法 : 美術館で 9 月 21 日 9:30 ~ 申込受付開始 (休館日は受け付けません)

佐野市郷土博物館 「佐野の狛犬 -阿吽の世界-」



《星宮神社(赤見町)の
狛犬(吽形)》

狛犬の姿はどれも同じなのか? 佐野で一番古い狛犬はどこにあるのか? そもそも狛犬はどこの神社にも置いてあるのか? そんな素朴な疑問にお答えする企画展です。佐野市内はもちろん、県南の狛犬も紹介します。

会 期 平成 **24** 年 **10** 月 **6** 日 (土) ~ **11** 月 **25** 日 (日)

開館時間 午前 9 時 ~ 午後 5 時

休 館 日 毎週月曜 (10月8日は開館)、10月9日

観 覧 料 一般 210 円 (100 円)、大学・高校生 100 円 (50 円)、
中学・小学生 50 円 (30 円) ※ () 内は 20 名以上の団体料金

電 話 0283-22-5111

●これからの文化・芸術事業のご案内●

お申込みは(公財)佐野市民文化振興事業団

TEL 0283-62-9554 FAX 0283-62-8929

※定員になり次第締め切ります。

アートマネジメント講座

優れた舞台芸術を生みだし、多くの人々がそれを鑑賞し楽しんでいただくためには、「創り手」と「受け手」をつなぐ専門的な人材(アートマネージャー)が必要です。当事業団では、そうしたアートマネージャーを育成するために、専門家による講座を開催します。アート全般に関する気運が高まるなか、専門家を目指す方だけでなく、ぜひ多くの方に参加していただきたいと思います。

日時 平成24年12月8日(土)・9日(日)・22日(土)・23日(日)の計4回
時間 13:00~
場所 葛生あくとプラザ
講師 松井憲太郎氏(富士見市民文化会館館長)
募集人数 30名(高校生以上)
参加費 無料



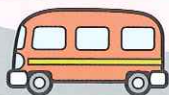
舞台裏方講座

ひとつの舞台公演は、多くの裏方によって支えられています。舞台の「表」だけではなく、「裏」ものぞいてみませんか?舞台装置や舞台機構の解説、基礎知識の講義に加え、簡単な実習を行います。あなたもぜひ、裏方の心意気を感じてみましょう。

日時 平成25年1月26日(土)・27日(日)
場所 葛生あくとプラザ
講師 龍福孝明氏(宇都宮舞台サービス)
募集人数 16名
参加費 無料



鑑賞ツアー参加者募集



芸術の秋、バスツアーで身近な名作にふれてみませんか?今年は吉澤記念美術館、郷土博物館の企画展に加え、安藤勇寿「少年の日」美術館をまわります。学芸員のわかりやすい解説つきです。

日時 平成24年10月24日(水) 午後1時
場所 郷土博物館
募集人数 30名
参加費 無料

行程

①郷土博物館→②吉澤記念美術館→
③「少年の日」美術館→④郷土博物館(解散)

